

地域懇談会を開催しました



和田分館で開催した地域懇談会であいさつする高松市長

■地震災害に関すること

質問：全国から義援金が増えてくると思うが、その金額と使途は。

回答：金額は、国・県から約1億5千万円です。その使途は、住宅が半壊以上となった世帯に配分しています。このほかに市に直接届いた義援金は約700万円で、半壊以上となった世帯へ市からの見舞金に充当しています。

質問：情報難民を出さないために全戸に防災無線戸別受信機を設置してほしい。

回答：震災以来、戸別受信機の生産が必要に追いつかない状態です。24年度も予算を計上していますのでお待ちいただきたい。なお、市からFMモットコムの放送に緊急時刻になりまされたので、災害時の情報提供の手段として活用してまいります。

■放射能対策に関すること

質問：市では全戸除染するのか。

回答：基本的に市が除染します。和田地区の2件でモデル除染を実施し、効果的な除染の方法を検証します。その上で、地区ごとに説明会を開催し、個々の住宅の条件にあった除染方法により行います。除染作業は、市内の事業者の方に組合を作っていただき、市から除染作業を委託することになります。

意見：除染に本気で取り組むためには、専門部署の設置が不可欠では。

回答：専門部署は必要性を感じており、議会へ部署の設置を提案したいと考えています。併せて、除染やモニタリングの拠点設置も検討しています。

質問：4月から食品の安全基準が下がる。市では作付けするというのが、その取り組みは。

回答：市では、来年の作付けをしていただきたいと方針を固めました。今作付けしなければ、農地を守れず後継者の問題もあります。市内で100ヘクタールを超したところはゼオライト、反転耕、ケイ酸カリを施用します。その他の田んぼにはケイ酸カリを配布します。秋の収穫までは検査体制を整えます。

質問：高圧洗浄で洗い流すと阿武隈川下流の放射線量が高くなるはず。その水を農家は利用するがどう考えるか。

回答：阿武隈川の水からはセシウムは検出されていません。川底の泥の線量が高いといいますが、また、高圧洗浄が効果がないと言われていますが、拭き取りなどによる除染方法も考えています。水はなるべく流さない方法で除染する努力をしたいと考えています。

質問：山から除染しないとまた線量に戻るのではないか。

回答：山の除染は面積もあり難しい。山林は除染の方法が確立されていないので、早く国に方針を示すよう要請いたします。

質問：仮置きは、本当に3年で撤去されるか。

回答：中間貯蔵施設設置は国の約束であり、国に履行を強く求めていきます。しかし、万が一の場合、1〜2年延びる事も想定はしなくてはいけないと考えています。

市長とまちづくりふれあいトークスタート!

市民の皆さんに市役所に来ていただき、市長とまちづくりについて懇談する「市長とまちづくりふれあいトーク」を開催しています。3月1日までに3件のふれあいトークを開催しました。内容は、「本宮市の歴史・文化を考える」、「放射能対策」「子どもたちの学校生活」などで、市長と意見を交換しました。

また、市長が皆さんの元へ出向いて市政全般について説明する「まちづくり出前講座」も好評開催中です。市長の話を聞いてみたい、意見・提案をしてみたいという方は、係までお問い合わせください。



初開催のまちづくりふれあいトークとなった、本宮歴史文化サークルの参加者の皆さん

◆問い合わせ先
秘書広報課 広報広聴係
☎33-1111 (内線223)

みなさんの“声”を市政に反映

意見：本宮地区にも農産物の測定所を設置すべき。

回答：24年度で測定器を21台に増設します。本宮地区にも計測拠点を設置したい。あわせて、本宮の大字地区にも1カ所くらい設置したいと考えています。自校方式で給食をだす学校・保育所に設置します。直売所や金曜夕市会場にも貸し出したいと考えています。

健康対策に関すること

質問：ホールボディカウンターが大人に回ってくるのはいつ頃か。

回答：4歳以上から就学前の子どもと妊婦の方は終了しています。3月に白沢地区の小中学生の検査が終了します。4月からは本宮地区の小中学生の検査を行います。成人の方は希望をとった上で、秋ごろになる予定です。

質問：幼児のホールボディカウンター、甲状腺調査、ガラスバッジなどの調査結果はどうなっているか。

回答：ホールボディカウンターは、4歳以上から就学前児童

質問：「えぼか」などの、子どもたちが遊べる施設の拡充は。

回答：本宮地区はえぼかがあります。白沢地区は保健センターを改修した室内遊び場を計画しています。ほかにも、社会教育施設でのイベントも考えていきたいと思っています。

意見：県民健康管理調査の県の担当部署はどこか。調査票を返送したが、何の回答もない。この調査は、何のために実施し、その結果をどのように使うかを先に説明するべき。

回答：福島県立医大が担当しています。個人情報観点から、全てをオープンにするのは難しいと思われます。県の進め方に不満はありますが、



地域懇談会の資料に目を通す北町コミュニティセンターの参加者の皆さん

協力していただくことが大切と考えます。

このほかにも、多数ご意見・ご要望・ご提案をいただきました。皆が紙面の都合上、一部のご紹介とさせていただきます。皆様からいただきました貴重なご意見・ご要望は、復興計画および除染計画の改訂にあたり、参考とさせていただきます。

◆問い合わせ先
秘書広報課 広報広聴係
☎33-1111 (内線223)

◆問い合わせ先
秘書広報課 広報広聴係
☎33-1111 (内線223)

【地区・会場別参加者】
北町コミュニティセンター40人、サンライズもとみや18人、青田地区11人、荒井地区33人、仁井田地区14人、高木地区32人、岩根・関下地区9人、和田地区38人、糠沢地区8人、白岩地区25人、長屋地区18人、稲沢地区27人、松沢地区10人 合計283人